

私立スプリング予備校 第四十七講



前回から花の予備校学園祭を開催して、日頃の疲れた頭脳を癒していますが、今日は植物クラブの会場をのぞくことにしてみよう。

-植物クラブの巻-

植物クラブといっても、盆栽をいぢくっているのではない。今年の生徒の研究テーマは『竹とばね』ということでまことに有意義なことである。それではひと回りしてみよう。

-竹とばね-

竹といえば、なんといっても、日本には沢山あり、物干竿から麻雀パイに至るまで、まことに親しみ易い植物である。竹とばねがきってもきれない関係があるのは、その弾性である。竹製品のなかでも、この弾性を利用したものが多。例えば、釣竿・弓・うちわや扇子・提灯・竹ぼうき・傘・スキーのストック・はしご等はみな弾性を利用したものである。はしごが弾性を利用したものとすると、驚くかも知れないが、とんとんとんと調子をとって登れるのは竹のはしごだけ、木や鉄のはしごではそうはいかない。

-竹とばねの北限地-

竹は花の咲く植物であるといっても、そんなにビックラすることはない。民謡の会津磐梯山の文句に、笹にこがねがエーマタなり下るといふのがあがあるが、あれは竹に花が咲いて実がなると、野ねずみ共が山に竹の実を喰いに行くので、里は豊年だ満作だという意味で、黄金を招く山や竹に感謝をこめた歌である。すなわち、日本では昔から知られていたこと。それはともかく分類上は単子葉植物(芽が出る時、子葉が一枚のもの、例えばチューリップ、朝顔はご存知のとおり二枚)で禾本科といわれる稲の仲間。全世界で竹の仲間は300種以上、熱帯が本場だが、北海道の熊さんが困るので、寒帯にも笹類は育つ。アジアが生産地で、次は南北アメリカ、その他は少なく、ヨーロッパにはない。わが国はエチソン君の炭素線電球や計算尺でも知られるように竹の名産地で、100種類もある。こんなに沢山あると、なかには変態性のももあって、断面が四角ぼいものや、小野の小町のように孔のないものまである。ところで、物干竿になるような太い竹の北限地は岩手・秋田を結ぶ線。ばね工業会の名簿によると、ばね屋さんの北限地も岩手県、こんなところもよく似ている。

-竹の熱処理-

竹のふえ方は、ハスやワラビと同じで地下茎から芽が出る。生れてから三才までは新子といってやわらかすぎる。また六才以上は老化して硬くなる。したがって、はしごなどに使えるのは四年生から五年生までが一番よい。ところで竹は一年間でほぼ成長し、おまけに年輪がない。どれが三年生か六年生かわからない。

次ページへ続く↓

株式会社アキュレイト 渡邊 信一

うえぶさいと www.accurate.jp 電子手紙 customer@accurate.jp

※ 本文は昭和41年から44年頃にかけて、新聞に掲載された記事の抜粋です。アキュレイトでは、掲載に携わった方々を探しています。また、工業規格や技術用語などはオリジナルのまま掲載しております。その為現在の規格と異なる表記がございます事をご了承ください。

※ 本文内容の転記・複写・改編を禁じます

竹取りぢいさんが、竹の年令を見分けるには、色とつやから経験的に見分けているわけで、この点はお宅の材料倉庫の方がずっと管理がよい。竹の弾性は、冷間引抜鋼線のように縦に通った繊維のおかげである。この繊維が年とともに硬化するわけで、あんまり硬化してもいけないことは、人間と同じである。さて、一見、硬くて丈夫な竹にも敵がいる。獅子身中の虫である。しんくい虫の仲間で、チビたけながしんくい虫と日本たけながしんくい虫である。彼等は竹の糖分が大好物。そこで、この虫害を防ぐために、竹は糖分が一番少ない、11月から2月にかけて伐採されるわけ。伐採して1カ月乾燥したものを、油抜き処置、すなわち、炭火であぶると、竹の中の油が滲出し、表皮が美しくなるだけでなく、材質も硬く丈夫になり、かつ防虫にもなるというから、一石三鳥というわけである。昔の竹槍の製造法である。なんとなく鋼の熱処理に似ている。お隣りの中国ではばねのことを弾簧（ダンフォン）という。黄色い竹は、若い青竹や、年取った茶色の竹より強い。さすがは文字の国である。それでは、つぎの教室へ。



以上

株式会社アキュレイト 渡邊 信一

うえぶさいと www.accurate.jp 電子手紙 customer@accurate.jp

※ 本文は昭和41年から44年頃にかけて、新聞に掲載された記事の抜粋です。アキュレイトでは、掲載に携わった方々を探しています。また、工業規格や技術用語などはオリジナルのまま掲載しております。その為現在の規格と異なる表記がございます事をご了承ください。

※ 本文内容の転記・複写・改編を禁じます